



# 名古屋の偉人伝

No.31

## 豊竹呂昇(とよたけろしょう)の巻

ここがスゴイ！

いっせい ふうび おんなぎだゆう むすめぎだゆう  
明治・大正に一世を風靡した女義太夫(娘義太夫)  
の大スター。一座を率いた全国興行、劇場進出、レコ  
ード進出など異色の活躍をし、熱烈なファンがいる一  
方で軽視されていた、女義太夫の社会的地位を高めた。



「義太夫雑誌(30)」(国立国会図書館所蔵)より

## こんな人生を送ってきました(経歴)

本名永田仲子、明治7(1874)年8月4日生～昭和5(1930)年6月7日没。

名古屋上宿(現在の西区域西)に生まれる。10歳のとき父が病死。翌年叔父に義太夫の手ほどきを受け、12歳で五世竹本土佐太夫の門人に、18歳で初世豊竹呂太夫の門人になる。義太夫の本場大阪でたちまち人気を博し、語り・三味線を文楽の名だたる名人・名手に師事した。22歳で旗揚げ、23歳から全国巡業を始め、31歳で劇場進出、34歳で有楽座に進出したことをきっかけに全国的なスターとなり、「有楽座のドル箱」と呼ばれた。50歳で引退、55歳他界。

(\*女義太夫とは、人形浄瑠璃文楽で演奏される音楽・義太夫節を女性が語ったもの。)

## もっとくわしく知りたいあなたに(参考文献)

『江戸東京娘義太夫の歴史』(水野悠子著 法政大学出版社 2003年)

『明治の名古屋人』(名古屋市教育委員会 1969年)